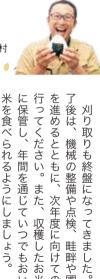




取り後の水田管理



機械の整備や点検、

畦畔や圃場整備

次年度に向けての管理を

収穫したお米は適下

秋耕により稲わらの腐熟を促進

年間を通じていつでもおいしいお

防と土づくりを行いましょう。 秋の内に稲わらを腐熟させ、 生育を阻害します。 翌年の湛水時に大量のガスが発生して水稲の 収穫後の稲わらや刈り株を放置しておく 収穫後にすき込みをして 翌年のガス害予

すき込み時期と耕起の程度

目安) 耕すようにしましょう。 地温が高いほど腐熟が進むため早い時期に すと通気性が悪く腐熟しにくいため、 すき込むほど効果が高くなります。 (5~10㎝程度が 深く耕 浅く

除草剤との併用について

- 除草剤は効果を高めるため気温が高いうち に使用しましょう。
- クロレ または耕起後に散布してください トSは散布後20日以上空けてか 0
- 散布後はすぐに効果が表れるため数日空け る必要があるため耕起前に散布しましょう。 プリグロックスLは直接茎葉や種子に触れ れば耕起可能です。
- 石灰窒素は散布後2週間以上空けて耕起す ることで雑草防除と腐熟促進効果が期待で

お米の保存は専用の保管庫で!

- 保管する場合は、 いと言われています。 精米よりも玄米の方が良
- 玄米の水分は14~15%程度が良い です。
- ます 気温・湿度の増減が少ない環境が適して 専用の保冷庫を用いれば玄米の保存に適し 0 い

米の品質管理には十分注意しましょう! た温度12~ 14 °Ç 湿度55~75%の維持が容